HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	意味論的な省略による言いさし文
Author(s)	劉, 暁芊
Citation	研究論集, 15, 179(左)-194(左)
Issue Date	2016-01-15
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgsl.15.l179
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60555
Type	departmental bulletin paper
File Information	15_015_liu.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgsl.15.l 179

意味論的な省略による言いさし文

劉　　暁　苹

要　旨

日本語では，未完結の形を通して表現することによって，様々な伝達の効果を目指すストラテジーの一つである未完結の発話が選好されている。本稿は，形式上は未完結でありながら，意味機能が完結しているような従属節のみで終わる発話を言いさし文と定義し，新たな構文としての言いさし文の形成過程と構文特徴を明確にする。

まず，先行研究に基づき，従属節のみで終わる発話の用語を整理した上で，言いさし文という表現の使用を規定し，その定義づけを行う。そして，構文形成の要因によって，言いさし文を「意味論的な省略による言いさし文」「語用論的な省略による言いさし文」「付加による言いさし文」の三種類に分けた上で，本稿の考察対象を「意味論的な省略による言いさし文」に限定する。最後に，意味論的な省略による言いさし文は，表現の慣習化や文法化によって生まれたものが多いので，典型的な定型表現の例として，「なければならない／なくてはならない」の省略による「なきゃ／なくちゃ」言いさし文，「ないとならない／いけない／だめだ／困る」の省略による「ないと」言いさし文，「たら／ばどう」・「たらどうしよう」・「たら／ばよかった／いいのに」の省略による「たら／ば」言いさし文，「って言った／聞いた」の省略による「って」言いさし文を詳しく考察する。

1　はじめに

日本語の日常会話では，完結している文より未完結文のほうが多数見られる。倒置の場合を除外し，言いさすことによって生じる未完結文は，使用頻度が増加するとともに，形式や意味もある程度慣習化されることによって，形式上は未完結でありながら，母語話者にとって，意味的完結性を持っていると見なしてもよいような場合も見られる。つまり，形式上は未完結でありながら，機能上は完結している。その言いさすという力によって生じた未完結の文を再考

察すると，意味的な完結性を持っているので，新たな構文としても考えることが可能である。それは，未完結の形を通して表現することによって，様々な伝達の効果が現れる一種の表現上のストラテジーとして考えられる。しかし，接続助詞などで終わる発話はすべて，意味機能が完結しているのか，すべてについてあてはまりはしないのなら，完結しているものと不完結のものをどのように見分けるのかという問題点が残っている。そこで，本稿は，接続助詞で終わるという不完全な形でありながら，意味機能上は完結している発話を対象として，それらの発話が意味機能の完結している新たな構文を形成する過程や，その新しい構文としての特徴を考察してみる。

2　言いさし文の定義と種類

2.1　言いさし文の定義

新たな構文としての従属節のみで終わっている発話に関するこれまでの先行研究は，研究者によって用語もそれぞれ異なる。そこで，ここではまずその用語を整理してみる。

日本語の伝統的な研究では，「言いさし」という用語がほとんどである。具体的に言うと，「言いさし」が主節の欠如のみを指す狭義の意味で使われる研究（白川 2009，朴 2010）もあれば，主節のみならず，述語の省略も含む広義の意味で使われる研究（荻原 2008，曺 2004）もある。「言いさし」という言葉からわかるように，「言いさし」という用語は，発話者が発話の途中で行為を中止することに重点がある。

発話者が途中で文の完成をやめるというのと同じような趣旨で，会話分析の研究では，「中途終了文」（元 2005，宇佐美 1995）という用語が使用されている。そして，英語 suspended clause の訳語として，大堀（2000：309）は「依存関係をもった節が主節を伴わずに出る構文」を中断節と定義している。

日本語のみならず，通言語的に機能主義的類型論という観点から，Evans（2007）は「insubordination」（「形式的には一見明白な基準で従属節のように見えるものの慣習化された主節用法」[1]（Evans 2007：367）という用語を使用している。Evans が定義している「insubordination」は，本来あるべき主節が省略され，その省略の習慣化によって，従属節が主節として見なされることが可能になるというところに重点がある。

言語類型論という観点から，英語の「insubordination」は，加藤（2013）では「非従属化」，堀江（2009）では「従属節の主節化」のようにそれぞれ翻訳されている。

本稿の考察対象は日本語に限定されている。日本語に限定して従属節で終わる発話を考察すると，その動機が，伝達における経済性であれ，ポライトネスなどによる完結や断言の回避で

[1]　訳語は堀江・パルデシ（2009：126）による。

あれ，従属節のみで成り立ち得るのは，その根本的なところに，途中で中止して言いさすという力が存在しているからである。以上を考慮するならば，発話の変化可能性も含めて，未完結の文を新たな構文として考察するためには，言いさすことによる「言いさし文」という言葉が最も適切な用語であると言えるだろう。本稿は，「形式上は未完結でありながら，意味機能が完結しているような従属節のみで終わる発話」を言いさし文と定義する。

2.2　言いさし文の種類

説明の便宜のため，本稿は言いさし文の基本形を「AX，B」と仮定する。「X」は形式文脈[2]に現れている従属節の文末にあり，従属節であることや未完結であることを表すマーカーである。本稿は，それを「言いさし文のマーカー」と呼ぶ。「X」は「から」や「ので」の接続助詞になる場合もあれば[3]，「みたいな」や「と/って」などの要素になる場合もある。「A」は言語形式に現れている「言いさし文のマーカー」以外の部分を指し，完結文としての性質を持っている[4]。「B」は，文法と文脈によって，追加可能な主節を指す。

言いさし文を新たな構文として考えるときに，それを形成する要因によって，少なくとも二種類に分けて考えることが可能である。Evans（2007）の「insubordination」に関する研究は，従属節が主節になる非従属化の過程を，「従属節→主節の省略→省略の習慣化→主節としての再分析」という四つのプロセスに分けて説明している。そして，Evans（2007）の省略によるという考えに対して，Kato（2014）は「additional insubordination」という付加的なパターンもあると提言した。「AX，B」という基本形を持つ言いさし文は，言語形式上「AX」として現れている。未完結の「AX」を完結するには，①「B」の追加，②「X」[5]の削除という二つの方法が考えられる。それを逆から考えるならば，「AX」という形式に未完結という性質を付与させたのは，「B」の欠如あるいは「X」の追加という二つの力であると考えられる。そこで，言いさし文の形成要因は，大きく省略と付加の二種類に分けて考えられるだろう。例えば，(1) a は「一緒にどう」などの省略によって形成されたもので，(1) b は「けど」の付加によって形成されたものである。

---

[2] ここでの形式文脈は加藤（2009）の定義に従う。形式文脈は「同一セッションの内部で言語的に具体化される発話の連続的な蓄積からなる」（加藤 2009：214）ものである。

[3] 「て」は接続助詞になるかどうかまだ検討する余地がある。

[4] 「A」の述語が連体形や終止形ではない場合に，「A」を完結するには，「A」の述語の形式を調整する必要がある。例えば，「わからなくて」という言いさし文の「A」の部分を完結するには，「わからない」のように調整する必要がある。

[5] 従属節としての「A」はある程度完結性を持っているからである。但し，「X」を単純に削除する場合もあれば，「X」を削除した後に，「A」の述語を調整する必要がある場合もある。

(1) a 部員「亀沢，これからみんなでラーメン食べに行くけど。」
　　亀沢「今日は辞めとく。」
日本テレビ系列『弱くても勝てます』第 6 話
　b 【珪子が自分の新婚旅行が熱海だったと言った後に，友達が笑いながら】
友達「うちでさえ網走なのに。」
珪子「近いからいいよなって。鈍行の普通席。でも，干物おいしかったけどね。」
フジテレビ系列『ようこそ，わが家へ』第 7 話

さらに，省略によって形成された言いさし文は，その省略部分の性質の違いによって，意味論的な省略と語用論的な省略の二種類に分けて考えられる。Grice（1975）は推意を慣習推意（What is COVENTIONSLLY implicated）と会話推意（What is COVERSATIONALLY implicated）[6] に分けて説明している。Grice（1975）の分類に従うと，意味論的な省略は，慣習推意に，語用論的な省略は，会話推意に当てはまる。

意味論的な省略は，文脈との関係がそれほど強くなく，主節「B」が習慣的に省略され，同じ言語形式に復元できる場合を指す。意味論的な省略は，定型表現が多い。例えば，「なければ（ならない／いけない）」や「たら／ば（どうですか）」など[7] の形式がある。語用論的な省略は，主節「B」が決まった同じ言語形式には復元できないが，同じような意味機能を持つ主節に復元できる場合を指す。例えば，(2) の言いさし文は，その後に「今戻らなければならない」や「今話ができない」，「先に失礼します」などの様々な形式が考えられるので，省略されている形式が決まっていないが，どの形式も相手からの行為を拒否する意を表すところに変わりはない。

(2)　記者「ねえ，よかったら，話を…」
　　白尾「練習中なんで。」
日本テレビ系列『弱くても勝てます』第 2 話

以上より，言いさし文は，「意味論的な省略による言いさし文」「語用論的な省略による言いさし文」「付加による言いさし文」の三種類に分けて考えることができるとわかる。本稿は，考察対象を「意味論的な省略による言いさし文」に限定する。

---

[6] 訳語は加藤（2015）による。
[7] それら以外に，「たら／ば（よかった／いいのに）」「ないと（いけない／だめだ）」「たり（する）」「て（ください）」「って／と（言う／思う）」も意味論的な省略として考えられる。

3　意味論的な省略に基づく言いさし文

3.1 「なきゃ」／「なくちゃ」言いさし文

(3)【娘がアナウンサーの四次面接まで行っているという話を聞いた後】

母「ねえ，七菜がアナウンサーになったら，お母さんもっとおしゃれしなくちゃね。」

フジテレビ系列『ようこそ，わが家へ』第2話

(4)【二人の同僚がしゃべっているところで，明日香が自分の席に戻った後】

明日香「さあ，たまった仕事片付けなきゃ。」

フジテレビ系列『ようこそ，わが家へ』第5話

(3)にある「おしゃれしなくちゃ」と(4)にある「片付けなきゃ」は，両方とも意味論的な省略で，主節「B」が「ならない」や「いけない」という決まった形式に復元できる。この節では，「なきゃ」と「なくちゃ」というマーカーで終わる言いさし文の形成を考察する。

「なきゃ」と「なくちゃ」は両方とも縮約形であるので，まずそれらの基本形から考える。堀口（1989：113）は日本語の話し言葉における縮約形をまとめたときに，「助動詞の『ナイ』または形容詞に『バ』が付いた『～ケレバ』は」，話しことばでは，「『～ケリャ』または『～キャ』の形で使われることがある」，また「『～クテハ』は，話しことばでは『～クチャ』の形で使われることがある」と述べた。したがって，「なきゃ」は「なければ」，「なくちゃ」は「なくては」の縮約形であり，「なきゃ」と「なくちゃ」の基本形は，「なければならない」「なければいけない」「なくてはいけない」「なくてはならない」であることがわかる。

そして，縮約形を含めて，「なきゃ」と「なくちゃ」に関わる基本形と言いさし文における形式は，図1のようになる。

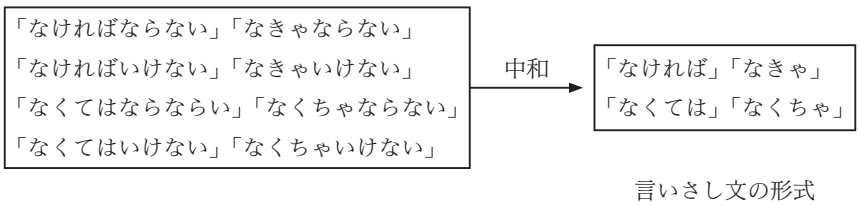

図1 「なきゃ」と「なくちゃ」の形式整理

「テハ文」と「バ文」について，蓮沼（1987：5）は「前件が否定形である場合は，どちらも〈必要性・義務〉といった共通の伝達的意味を持つようになり，その差異を失う傾向がある」と述べた。本稿は，基本形の「なければならない」「なければいけない」「なくてはならない」「なくてはいけない」の意味機能の細かい違いを明確にするものではないので，それらの間に差が

あると認めた上で，「なければならない」を代表として議論を進める。

(5)　行かなければ　ならない。

(5) を例として説明すると，「なければならない」は本来「行かなければ」は従属節で，「ならない」は主節である。しかし，「なければならない」は使用頻度によって文法化され，義務を表す一つのまとまりになったという論説が多数の先行研究で窺える。前田 (2009：52) は，「しなければならない」を「評価のモダリティを表現する複合的な文末表現」と位置づけ，加藤 (2011) は，「なければならない」の文法化の度合いが高く，助動詞相当の機能単位となっていると述べ，花薗 (1999) は，「しなければならない」「しなければいけない」「するといい」「したらいい」「すればいい」を対象に，7 つのテストを通して，「しなければならない」と「しなければいけない」の一語化の度合いが最も高く，「条件形複合用言形式 (条件用言)」と位置づけた。以上の点から，「なければならない」は言いさし文として成り立つ前に，文法化して助動詞になるプロセスがあったと言えるだろう。この「文全体の中では従属節が主節に格上げされて (＝主節化)，従属節が存在しないことになり (＝従属節消去)，複文であったものが単文となる (＝単文化)」という変化を加藤 (2011：38) は「非節化」と名づけた。

そこで，「なきゃ／なくちゃ」という言いさし文の形成について，「文法化」→「非節化」→「省略」→「言いさし文」というプロセスが考えられるだろう。

では，主節の「ならない」が省略され，「なきゃ」という言いさし文になった後に，実際の使用上では，言いさし文「なきゃ」について，形式や意味機能における制限が現れてきたかどうかを確認する。

(6) a 私は頑張らなきゃ。／あなたは頑張らなきゃ。／彼は頑張らなきゃ。
　　b 何かの必然性がなきゃ。／速くなきゃ。／自分も幸せじゃなきゃ。
　　c 今日頑張らなきゃ。／*昨日頑張らなきゃ。

(6) a に示しているように，言いさし文「なきゃ」は人称における制限はない。また，(6) b にあるように，「なきゃ」の前には，動詞のみならず，名詞，形容詞，形容動詞も使用可能である。そして，(6) c から，言いさし文「なきゃ」はテンスが中和され，過去には使用しにくいことがわかるだろう。したがって，定型「なければならない」の文法化の程度が高いことによって，言いさし文としての「なきゃ／なくちゃ」も形式における使用制限が少なく，過去以外に，全部使用可能であると言える。更に，(7) に示しているように，「なきゃ」にコピュラ「だ」の後接も可能になり，「なきゃ」という表現自体の自立性が高まって，義務のモダリティとしての性質が現れると考えられる。

(7)　洗濯しなきゃだよ。

加えて，「なければならない」は義務を表すのが基本であるので，言いさし文「なきゃ」には，主語の違いによって，違う性質が現れてくる。主語が話し手［(8) a］や第三者［(8) c］であるならば，「要求性なし」の独り言に近い性質を持つ場合と，聞き手への「受容要求」の性質を持つ場合がある。主語が聞き手［(8) b］であるならば，「行為要求」になる。

(8) a 私たまった仕事片付けなきゃ。　→［要求性なし」／「受容要求」
　　b あなたたまった仕事片付けなきゃ。→「行為要求」
　　c 彼たまった仕事片付けなきゃ。　→「要求性なし」／「受容要求」

3.2 「ないと」言いさし文

意味論的な省略による「と」言いさし文は，(9) に示しているように，「A」の部分の形式も「B」の部分の形式も決まっている。即ち，「A」の述語は否定形であり，「B」は「ならない／だめだ／いけない」などの否定の評価表現である。したがって，「と」言いさし文は，常に「ないと」の形で現れ，基本形が「ないとならない／いけない／だめだ／困る」であることが想定できる。

(9)【食事の後，時計を見てから】
女「私，そろそろ行かないと。」
フジテレビ系列『ようこそ，わが家へ』第 2 話

「A」の述語は否定形であるのが同じであるが，前接する要素の性質の違いによって，「ない」の性質も異なる。(10) の a〜c に示しているように，「走る」という動詞に付く「ない」は助動詞で，「美しい」という形容詞に付く「ない」は補助形容詞で，「クーラー」という名詞に付く「ない」は自立的形容詞である。

(10) a 走らないとならない／いけない。
　　b 美しくないとならない／いけない。
　　c クーラーがないとならない／いけない。

「しなければならない」以外に，前田 (2009：52) は，「しないとならない／いけない」も「評価のモダリティを表現する複合的な文末表現」と位置づけている。「なければならない」とは文法化の度合いの違いはあるが，「ないとならない／いけない／だめだ／困る」も一つの定型表現

として見られる[8]。

言いさし文「ないと（いけない／だめだ／困る）は，形式上の制限が「なきゃ／なくちゃ」言いさし文と類似している。まず，(11) a と (11) b に示しているように，言いさし文「ないと」は，人称における制限はないし，動詞のみならず，名詞や形容詞，形容動詞も使用可能である。また，(11) c にあるように，「と」の従属節はテンス分化を持っていないので，過去を表す発話には使用できない。さらに，(11) d に示しているように，「ないと」言いさし文も「なきゃ」言いさし文と同じように，コピュラ「だ」の後接が可能であり，「ないと」という表現が自立性の高い義務モダリティとしての性質があると考えられる。

(11) a 私はもう行かないと。／あなたはもう行かないと。／彼はもういかないと。
　　b 何かの必然性がないと。／速くないと。／自分も幸せじゃないと。
　　c 今日頑張らないと。／*昨日頑張らなかったと。
　　d 頑張らないとだな。

そして，言いさし文「なきゃ／なくちゃ」と同じように，言いさし文「ないと」も義務を表すのが基本機能である。「A」に現れる述語の性質と主語の違いによって発話の性質も異なる。まず，(12) のように述語が形容詞や名詞である場合には，聞き手への行為要求性はなく，「要求性なし」か「受容要求」の性質を持っている[9]。そして，述語が動詞である場合で，主語が話し手や第三者であるならば，「要求性なし」か「受容要求」の性質を持っているが，主語が聞き手であるならば，「行為要求」になる。(13) a は主語が話し手で，(13) b は主語が聞き手，(13) c は主語が第三者である。

(12) a 美しくないと。　→「受容要求」／「要求性なし」
　　b クーラーはないと。　→「受容要求」／「要求性なし」
(13) a 私そろそろ行かないと。　→「受容要求」／「要求性なし」
　　b あなたそろそろ行かないと。　→「行為要求」
　　c 明日客が来ないと。　→「受容要求」／「要求性なし」

[8] 但し，「なければならない」は文法化がかなり進んでいるので，助動詞として考えられるが，「ないとならない／いけない／だめだ」は「なければならない」より文法化の度合いが低いので，助動詞として考えられるかどうか検討する余地があると思われる。

[9] 但し，推意レベルで聞き手に行為を要求する場合もありうる。

3.3 「たら／ば」言いさし文

3.3.1 形式の整理

(14) a 赤岩「白尾，お前本当に一切勉強しない気か。」
白尾「しない」
柚子「試験前ぐらいは勉強したら。」
→*柚子「試験前ぐらいは勉強すれば。」*
日本テレビ系列『弱くても勝てます』第2話
b 部下「この患者で試すということですか。」
教授「病院にとって，患者は二種類。絶対死なせてはならない患者とそれ以外の患者だ。」
部下「でも，万が一副作用が起きたら」
→*部下？「でも，万が一副作用が起きれば」*
TBS系列『アリスの棘』第4話
c もうちょっと早く教えてくれたらな。／もうちょっと早く教えてくれればな。

(14) a〜(14) cにある「たら」で終わる発話の主節は，それぞれ「勉強したらどう」，「起きたらどうしよう／まずい／困る」「くれたらよかったのに」のように復元できる。したがって，「たら」「ば」というマーカーで現れる言いさし文は，定型表現が一つではなく，三つのケースに分けて考える必要があり，それらの基本形は図2のように考えられる。

「たらどうしよう」[10]	*「ばどうしよう」
「たらどう」	「ばどう」
「たらよかったのに／たらいいのに」	「ばよかったのに／ばいいのに」

図2 「たら」「ば」言いさし文の基本形

次に，「たら／ば」の基本形の違いによって，「たら／ば」言いさし文を分けて形式上の制限と意味機能を考察する。

3.3.2 「たら（どうしよう）」言いさし文

まず，主節の「どうしよう」が後接する言いさし文は，「たら」のみで，「ば」は存在しない。白川（2009）は，レバ節とタラ節の違いを考察したときに，意味機能の面から，レバ節が「タ

[10] もちろん，「たらどうしよう」以外に，「たらまずい」や「たら困る」の形式も考えられるが，本稿は「たらどうしよう」という形式を基本形として議論を進める。

ラ節と異なるのは，危惧の意味で使った用例がまったく見当たらないことである」(白川 2009：76）という同じ趣旨の指摘をしている。

「たらどうしよう」という基本形をもとに，「たら」言いさし文の形式上の使用制限は，(15) のように考察することができる。言いさし文「たら（どうしよう)」は，述語における形式上の使用制限はなく，動詞・形容詞・形容動詞・名詞の肯定・否定がすべて使用可能であり，人称における制限もないということがわかった。

(15) a 今行かないと，後で雨が降ったら。
a' そんなに自信満々に言ってまずいでしょ。明日雨降らなかったら。
b 今急いで買わなくてもいいでしょ。向こうのほうがもっと安かったら。
b' 今買わないと，向こう安くなかったら。
c 彼のデザインがもっときれいだったら。
c' 彼のデザインきれいじゃなかったら。
d 日曜空けとかないとまずいでしょ。試験日が日曜だったら。
d' 君日曜しか空いてないじゃん。友達の結婚式が日曜じゃなかったら。
e あのコンサートすごい人気なんだよ。私／あなた／彼女チケット買えなかったら。

さらに，言いさし文「たら（どうしよう)」は，イントネーションが上昇調にならず，主節が「どうしよう」以外に，「まずい／困る」などの否定的な評価を含む表現にも復元できる。言いさし文「たら（どうしよう)」は，聞き手に知識の提供を要求し，二次レベルで事態に対する話し手の評価や判断を提示するという機能がある。

3.3.3 「たら／ば（どう)」言いさし文

まず，「たら（どうしよう)」を基にする言いさし文と「たら／ば（どう)」を基にする言いさし文には，イントネーションの違いが見られる。3.3.2 で述べたように，言いさし文「たら（どうしよう)」は，イントネーションが上昇調にならないのに対して，「たら／ば（どう)」は，イントネーションが上昇調になるのが普通である。

そして，「たら／ば（どう)」に関する先行研究は多数見られるが，それらの説明は形式に関するものと意味に関するものに分けて考えられる。

形式に関しては，「たら（どうしよう)」を基にする「たら」言いさし文の主節は，「どうしよう」という疑問文のみならず，「まずい」や「困る」などの表現にも復元できるが，言いさし文「たら／ば（どう)」の主節は，疑問文に限定されると Kato（2014）は述べている。更に，言いさし文の形式について，白川（2009：75）は「①タラ節の主語が聞き手であり，かつ，②タラ節の述語が意志的動作であることが必要である」と述べ，島（1993：22）は「形態上では否定的内容を〈助言〉する際」，「『ない形』接続の『～しなければ？』『～しなかったら？』の形式

ではなく『〜するのをやめたら？』という形式がもっぱら使用されている」と述べた。

意味に関しては，相手に対する提案や勧誘，助言を表すと述べた研究が多数であり（白川2009，Kato 2014，島 1993），その「聞き手に対する純粋な〈助言〉を表すものから，聞き手に対して「勝手にしろ」と示唆するものまで幅広い使われ方をしている」（島 1993：15）という指摘も見られる。助言であれ，提案であれ，命令であれ，それらは単に聞き手に対する要求の度合いの違いだと本稿は考えている。したがって，言いさし文「たら／ば（どう）」の意味機能は，聞き手の行為実施を要求していると理解できるだろう。

以上より，言いさし文「たら／ば（どう）」に関して，「A」の部分の形式に，①主語が聞き手で，②述語が意志的動詞，③述語の否定形が不可―という三つの制限があることと，聞き手の行為を要求するという意味機能を持っていることが言える。

3.3.4 「たら／ば（よかった／いいのに）」言いさし文

Kato（2014）も述べたように，言いさし文の「たら／ば（よかった／いいのに）」は，二回にわたって言いさすことにより生まれたものである。具体的に言うと，例えば，(16)に示しているように，完結文→「のに」言いさし文→「ば」言いさし文というプロセスが見られる。

(16)　完結文[11]「メールくれればよかったのに，なんでくれなかったのよ。」

↓

「のに」言いさし文「メールくれればよかったのに。」

↓

「ば」言いさし文「メールくれればね。」

形式上，言いさし文「たら／ば（よかった／いいのに）」は使用制限はないと言える。まず，動詞・形容詞・形容動詞・名詞の肯定・否定の使用が全部可能である。また，過去の事態のみならず，現在や未来の現実に反する仮定も使用可能である（加藤 2006，ウェスリー2011）。但し，(17) a がやや不自然であるように，言いさし文「たら／ば（よかった／いいのに）」が自然になるには，(17) b のように発話末の終助詞「ね」，イントネーションの変化などが必要である。

(17) a？早めに電話くれれば。

b　早めに電話くれればね。／早めに電話くれれば！

[11]「のに」言いさし文は，語用論的な省略によるものだと本稿は考えているので，(16) の完結文の主節は，形式が決まっておらず，(16) にあるもの以外に，別の表現ももちろん考えられる。しかし，主節にあるものは「A」の部分と反対の関係にある事実に対する話し手の不満を表す意味を持つという共通点がある。

意味上，従来の研究では，「たら／ば（よかった／いいのに）」が反事実条件文と位置づけられているように，言いさし文「たら／ば（よかった／いいのに）」は，事実に反する事態を述べる機能を持っている。但し，その事態の生じる時間の違いや聞き手との関わり方の違いによって，派生的な意味を持つ場合も考えられる。具体的に言うと，過去［(18) a］と現在［(18) b］にある事実に反する事態を提示する場合には，話者の不満を表す。現在［(18) b］と未来［(18) c］にある事実に反する事態を提示する場合には，話者の願望を表す。更に，その事態は聞き手が制御し可能なら，聞き手に対するマイナスの評価［(18) a と (18) b］や行為の要求［(18) b］[12] という意味機能も現れてくる。

(18) a【時間をかけていっぱいご飯を作った妻が，外食で満腹になった夫に向かって】
妻「メールくれればね。」
b【一人で家事をやっている妻が，テレビを見ている夫に向かって】
妻「一緒にやってくれればね。」
c【明日友達とキャンプへ行く約束があるアは，本当は行きたくなくて】
ア「明日雨でも降ればね。」

3.4 「って（言った／聞いた）」言いさし文

「って」は引用を表す表現「と」の口語である。話し言葉で，引用の用法として，「って」以外に，「ってば」「(ん) だって」と「(ん) ですって」などの形式も見られる。それらの形式は意味機能が完全に一致しているわけではないので，本稿では区別しながらそれらの形式や意味機能を考察する。

3.4.1 「って」の先行研究と問題点

これまで，「と」や「って」を中心とする引用表現に関する先行研究が多数見られる。文末に現れる「って」に重点を置く代表的な研究は岩男（2003）がある。岩男（2003）は「引用文の元話者が（「聞き手・話し手自身・第三者」のうち）誰であるか」という点によって，「〜ッテ。」の用法を分類した。元話者が聞き手である場合の「〜ッテ。」を，「〈知識未定着用法〉」と呼び，元話者が話し手自身である場合に，「〈押し付け用法〉」と「〈表出的用法〉」があると述べ，元話者が特定の第三者である場合を，「〈伝聞的用法〉」と名づけた。そして，「〈押し付け用法〉」と元話者が不特定の「〈伝聞的用法〉」は引用表現の性質を失いつつあり，「ッテ」は「文末形式相当の表現として定着しつつある」（岩男 2003：160）と指摘し，「〈知識未定着用法〉」と元話者が特定の第三者である「〈伝聞的用法〉」は引用表現の性質を保持しており，「引用構文の言いさし

[12] (18) a は，夫のこれからの行為を示唆するという点から考えれば，「行為要求」の性質を持っているとも考えられる。

に相当するものと捉えたい」（岩男 2003：160-161）と論じている。

岩男（2003）は文末の「って」を体系的にまとめているが，再検討を要するところが三つある。一つ目は，論述の一貫性の問題である。岩男（2003）の「文末形式相当の表現」と「引用構文の言いさし」は，それぞれ本稿で定義している「付加による言いさし文」と「省略による言いさし文」に類似している。岩男（2003）の分析では，同じく「伝聞的用法」は，「文末形式相当の表現」になる場合もあれば，「引用構文の言いさし」になる場合もある。論述の一貫性から考えると再検討する余地があると思われる。二つ目は，引用内容が不特定の第三者による場合に，すべてを「文末形式相当の表現」として扱う妥当性である。岩男（2003）の説明に従うと，引用内容が不特定の第三者による場合の「って」は，「話し手が自分の所有する情報を発する表現となってしまっている」（岩男 2003：159）ので，「引用表現としての性質を失った」（岩男 2003：159）。しかし，ここでの「元話者が不特定」の定義を明確にしない限り，そう言い切れるかどうかは疑問に思われる。三つ目は，不特定の第三者が情報源になるときと話し手が情報源になるときの違いが，わからなくなるという問題点である。例えば，(19)は「元話者が不特定の〈伝聞的用法〉」として捉えられているが，元話者が話し手である「〈押し付け用法〉」としても考えられるのではないかという疑問がある。

(19)　[13]夏の風邪はしつこいッテ。

3.4.2　用法の分類

加藤（2009）は人間の記憶領域を「処理記憶」「談話記憶」「知識記憶」の三つに分け，「処理記憶から談話記憶へ，談話記憶から知識記憶へ情報が送られる」（加藤 2009：212）と述べた。また，「処理記憶」「談話記憶」「知識記憶」の特徴を表 1 のようにまとめている。

表 1　加藤（2009：212）「記憶領域」の引用

	保持時間	文脈種	容量	処理後	共有
処理記憶	有期 おおむね数秒を限界	文脈化以前の状態（言語音から解釈処理終了まで）	限界あり。 容量小。	処理後の情報は保持しなくてよい。	せず
談話記憶	有期 おおむね数時間	形式文脈・状況文脈	限界あり。 容量大。		する
知識記憶	永続的	世界知識・言語知識	限界なし。	常に更新状態	部分的にする

[13] (19)は岩男（2003）の(26)の前半による引用である。

3.4.1 の問題点をもって，本稿は加藤（2009）の考えを参考にし，「って」の引用用法を次のように区分する[14]。その際，分類の基準を発話時の聞き手の知識状態にする。ここで述べている聞き手の知識状態は，話し手が想定したものである。発話時の聞き手の知識状態によって，「って」の使用状況は次の三つとなる。①引用の内容が聞き手の談話記憶にも知識記憶にもない場合，例えば（20）。②発話内容が聞き手の談話記憶にある場合，例えば，（21）。③発話内容が聞き手の知識記憶にある場合，例えば，（22）。

（20）【倉田が，最近仕事がなく，暇であると言った後】
友達「あれ？高栄館の表紙は？」
倉田「あの，別のデザイナーに頼むって。」
フジテレビ系列『ようこそ，わが家へ』第 1 話

（21）[15]山下「俺はもうすぐクビになるらしいよ」
仲「らしいよッテ？」
山下「まだ直接店長からは言われてないんだけどねー」

（22）【編集長が他人の写真を盗撮しているところを見て】
倉田「ちょっと，勝手に取っちゃまずいですって。」
フジテレビ系列『ようこそ，わが家へ』第 6 話

3.4.3　意味論的な省略による場合

意味論的な省略による「って」言いさしは，「①引用の内容が聞き手の談話記憶にも知識記憶にもない場合」である[16]。聞き手の談話記憶にも知識記憶にもないというのは，引用内容が聞き手にとって未知の内容である場合[17] と考えられる。①は「って」のいわゆる「伝聞用法」であり，「って言った／聞いた」という定型表現からの省略と考えられる。①の「伝聞用法」として，使用できる形式は，「って」以外に，「（ん）だって」と「（ん）ですって」もある。

「って」，「（ん）だって」と「（ん）ですって」の違いについて，山崎（1996）は「って」の「引用」と「伝聞」の用法を分け，引用は「って」の形として表れ，伝聞は「って」以外に，「（ん）だって」と「（ん）ですって」の形もあると述べた。しかし，山崎（1996）は「引用」と「伝聞」の違いを論じておらず，また，伝聞の「って」が，「述語を省略した引用の『って』との区別が

[14] 本稿では，話し手の考えを述べる「〜って思った」の用法を除外する。
[15] （21）は岩男（2003）の（9）からの引用である。
[16] ②と③の用法はまた別の機会に譲る。
[17] もちろん，ここでの未知と言うのは，話し手の推測に基づくものである。引用内容が，実際に聞き手にとって未知であるかどうかは，本稿は考慮しない。

難しい場合がある」（山崎 1996：4）とも述べているので，本稿ではそれらの違いを特には議論せず，同じく「って言った／聞いた」の省略として捉える。

次に，「って（言った／聞いた）」という言いさし文に統語的制約があるかどうかを考察してみる。

加藤（2012）は，「語か句か文かを問わず言及された表現が 1 まとまりの被引用表現とみなされれば，その本来の品詞性に関係なく，引用表現全体が名詞と見なされる」（加藤 2012：62）という「引用による名詞化」（加藤 2012：62）の考えを述べている。「って」に後続される命題は引用化されるものになり，引用化されたものは全体で名詞としての性質を付与されるので，「って」に接続されるものは形式上の制約がないと言える。

以上より，引用の内容が聞き手の談話記憶にも知識記憶にもない場合に，「って」で終わる発話は，「って言った／聞いた」という定型表現の慣習化による意味論的な省略であり，聞き手にとって未知である第三者の情報を引用する機能を持っていると言える。

4　まとめ

本稿は，形式上は未完結でありながら，意味機能が完結している従属節のみで終わる言いさし文の構成過程と特徴を明確にすることを試みた。具体的には，まず，構成要因によって，言いさし文を「意味論的な省略による言いさし文」「語用論的な省略による言いさし文」「付加による言いさし文」の三種類に分けた。そして，意味論的な省略に限定し，「なきゃ／なくちゃ」「ないと」「たら／ば」「って」を代表的な例として，言いさし文の構成過程と特徴を考察した。その結果，意味論的な省略によって形成された言いさし文は，定型表現の慣習化や文法化が大きく関与していることがわかった。今後は，意味論的な省略のみならず，研究を語用論的な省略と付加によって形成された言いさし文に拡大し，言いさし文の全体像を明確にしたい。

（りゅう　ぎょうへい・言語文学専攻）

参考文献

岩男考哲（2003）「引用文の性質から見た発話『～ッテ。』について」『日本語文法』3 巻 2 号　pp.146-162
ウェスリー・M・ヤコブセン（2011）「日本語における時間と現実性の相関関係：「仮定性」の意味的根源を探って」『国語研プロジェクトレビュー』5　国立国語研究所　pp.1-19
元智恩（2005）「日韓の断わりの言語行動の対照研究：ポライトネスの観点から」筑波大学博士学位論文
宇佐美まゆみ（1995）「談話レベルから見た敬語使用 ── スピーチレベルシフト生起の条件と機能」『学苑』662　pp.27-42
大堀壽夫（2000）「言語的知識としての構文 ── 複文の類型論に向けて」『認知言語学の発展』ひつじ書

房　pp.281-315
荻原稚佳子（2008）『言いさし発話の解釈理論 ―「会話目的達成スキーマ」による展開』春風社
加藤重広（2006）『日本語文法入門ハンドブック』研究社
――――（2009）「動的文脈論再考」『北海道大学文学研究科紀要』128 号　pp.195-223
――――（2011）「日本語における文法化と節減少」『アジア・アフリカの言語と言語学』5　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　pp.33-57
――――（2012）「日本語における名詞性 ― 名詞らしさの境界と段階」影山太郎•沈力（編）『日中理論言語学の新展望③語彙と品詞』くろしお出版　pp.51-76
――――（2013）『日本語統語特性論』北海道大学出版社
――――（2015）「構文推意の語用論的分析：可能構文を中心に」『北海道大学文学研究科紀要』146 号　pp.259-293
島弘子（1993）「助詞の表現「～たらどうですか」「～すれば？」を巡って：ポライトネスの観点から」『金沢大学留学生教育センター紀要』2　pp.13-23
白川博之（2009）『「言いさし文」の研究』くろしお出版
曺英南（2000）「用件の会話における言いさし表現について：言いさし表現とその後の相手の反応を中心に」『言語文化と日本語教育』pp.27-38
朴仙花（2010）「OPI データにみる日本語学習者と日本語母語話者による文末表現の使用：接続助詞で終わる言いさし表現を中心に」『言葉と文化』11　pp.217-235
蓮沼昭子（1987）「条件文における日常的推論：『テハ』と『バ』の選択要因をめぐって」『國語学』150 日本語学会　pp.1-14
花薗悟（1999）「条件形複合用言形式の認定」『国語学』197 国語学会　pp.104-90
堀江薫•プラシャント•パルデシ．2009．『言語のタイポロジー ― 認知類型論のアプローチ ―』東京：研究社．
堀口純子（1989）「話しことばにおける縮約形と日本語教育への応用」『文藝言語研究　言語篇』15，筑波大学　pp.99-121
前田直子（2009）『日本語の複文　条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
山崎誠（1996）「引用・伝聞の『って』の用法」『国立国語研究所研究報告集』17　pp.1-22
Evans, Nicholas. 2007. “Insubordination and its uses”, In Nikolaeva, Irina (ed) Finiteness: Theoretical and Empirical Foundations, Oxford: Oxford University Press. pp.366-431
Grice, Paul H. 1975. “Logic and Conversation.” in Peter Cole and Jerry Morgan (eds.) Syntax and Semantics, New York: Academic Press, pp.41-58.（清塚邦彦訳（1998）『論理と会話』勁草書房）
Kato, Shigehiro. 2014. “Insubordination types in Japanese -What facilitates them?-”. Asian and African Languages and Linguistics, Vol.8. pp.9-30